

やとみ文協

弥富市文化協会

事務局 教育委員会生涯学習課
総合社会教育センター

歴史ある藤棚での風雅な催し 森津の藤見会

四月二十六日(土)

鯉のぼりが泳ぐさわやかな風と新緑のなか、四月二十六日に見ごろを迎えた森津の藤公園で「森津の藤見会」が催されました。

弥富市の指定天然記念物「森津の藤」は、正保四（一六四七）年の森津新田開拓当時に植えられたと伝えられています。伊勢湾台風の被害を受けて衰えてしまいましたが、平成六年に復生し、庭園が整備拡大され、今年もきれいな紫の花を咲かせていました。

藤見の会では、弥富出身の漢詩人である服部擔風が使用していた書斎「藍亭」の内部が公開され、ボランティアによる解説とともに見学会が行われました。

また、公園内で文化協会所属の裏千家茶道部・輝水会によるお茶会が開かれました。



輝水会によるお茶会



森津保存会神楽太鼓



多くの客人が藤を眺めながらお茶会の雰囲気を楽しみ、楽しんでいました。
藤棚を背に、午前は森津保存会による神楽太鼓、午後は雅楽「浦安の舞」の披露もあり、催しを盛り上げていました。



第36回 春の洋邦楽舞発表会

令和7年4月12日(土) 14団体が日頃の成果を発表しました。



民謡部 ナズナ



民謡部 民謡クラブ



日本舞踊 雅会



コーラス部 コール朱音



大正琴部 白鳥エンブレム



J☆KIDS チアダンス

令和七年度文化協会総会



会長挨拶

四月二十三日午後二時より、社会教育センターホールに於いて令和七年度文化協会総会が開かれた。

戸谷副会長の開会の言葉で始まり、初めに永井会長より、「春の洋邦楽舞発表会や市民文化展も無事に終わり、これからの行事も充実したものにし発展させたいので、ご協力をお願いしたい。」と挨拶があった。

次に、安藤市長より、「市民文化展では小中学生の素晴らしい作品、洋邦楽舞発表会では澁瀬としたJ☆KIDSのダンスがあり、伝統や慣習を次の世代

に継承・発展していくことが個性豊かな文化芸術活動になっていく。」と挨拶をいただいた。

最後に、高山教育長が「小中学生と一緒に活動することや奥深い芸術と文化を脈々と続けていくことが、弥富の未来につながることを期待したい。」と挨拶された。

その後、議長（コール朱音）を選出し協議に入った。



総会会場の様子



令和七年度役員

令和六年度事業報告と収入・支出決算及び会計監査報告が承認された。役員改選では、副会長が新しく選出され承認された。続いて令和七年度事業計画、予算案が承認された。

美術部部門に昨年度末、「己書道場」が入会し、文化協会は三十三団体になったと報告された。

その後、永井会長をはじめ役員の自己紹介があり、諸田新副会長の閉会の言葉で令和七年度総会は無事終了した。

令和7年度 弥富市文化協会役員名簿		
職 名	氏 名	
名誉会長	安藤	正明
顧問	伊藤	進
会 長	永井	利明
副 会 長	戸谷	則子
	伊藤	晴美
	諸田	秋夫
書 記	鬼頭	正明
会 計	太田	典子
監 事	大木	晴美
	大島	勝久
理 事	富田	範保
	小島	袈娑雄
	稲垣	喜正
	珠島	範男
	諸田	秋夫
	伊藤	郁男
	黒宮	輝夫
	佐藤	高清
	久保	由美子
	富田	恵美
	永田	照子
事務局	弥富市生涯学習課 (総合社会教育センター内)	

新しい仲間!

己書道場

おのれ じょう じょう
己書とは：「自分だけの書」という意味です。オンラインワンの書とも言えます。

季節に合ったお手本を見ながらハガキや色紙に描きます。年賀状や暑中見舞いなど手書きのハガキを作成し、お友達に送りませんか。
初心者大歓迎です。



- 練習日時
第一・第三金曜日
午後一時半～四時
- 場 所
社教センター
研修室
- 参加費
一回 二二〇〇円



トピックス

第47回 国際書画展

入選作品



「十二天像」 北野 泰宏



「うつりゆく季節」 山本 克志

春・36回 市民文化展

～日頃の成果を発表～

令和7年4月11日(金)～13日(日)

◆出品数 文化協会：201点 一般：152点
市内小中学校：101点

◆来場者数 745名



書道部



大津絵教室



絵画部



押花くらぶ



水墨画部



個人作品



弥生小学校



白鳥小学校



陶芸部



抱淑書道会

令和7年 春の特別企画講習会・大会

●とき：4月8日(火)～4月27日(日) ●ところ：社会教育センターほか

17の部が講習会・大会を開催しました。日頃の活動の様子を見たり参加したりしての楽しい時間でした。



民謡クラブ：セントレア音頭などを練習



コール朱音：練習曲は「花のなみだ」



将棋部：棋力に応じてA級B級で対戦



水墨画部：筆の使い方を体験

郷土の文化人

山口誓子

山口誓子は、明治三十四(一九〇二)年に京都市で生まれました。本名は新比古といい、東京帝国大学を卒業後、大阪在住を経て四日市市、鈴鹿市にも住み、平成六(一九九四)年に兵庫県西宮市で亡くなりました。俳句誌『天狼』を創刊、代表作の句集に『凍港』『遠星』『紅白』などがあります。昭和五十二(一九七七)年には『山口誓子俳句全集』十巻を刊行、昭和六十二(一



筏川の桜堤にある句碑

九八七)年に日本芸術院賞を受賞しました。

群金魚

曲流なして
槽廻る

この句は、昭和六十一(一九八六)年に弥富を訪れた時の作で、競り市で「かんこ」と呼ばれる槽の中の金魚が、群れをなしてぐるぐる回っている様子を詠んだものです。句碑は、平成六年誓子が亡くなる直前に前ヶ須の筏川の桜堤に建てられました。句碑の書は誓子の直筆で絶筆とされています。

前ヶ須はかつて木曾川の船着き場があったところで、江戸時代の終わりごろ、大和郡山(奈良県)の金魚商人が立ち寄り金魚を休ませたことが、弥富金魚の始まりとされています。市内にはもう一基誓子の句碑があります。



おみよし松近くにある句碑

金魚田の中に
人住む家があり

この句碑は、平成九(一九九七)年四月、平島町のおみよし松近くに建てられました。広大な金魚池の中に人家が点在している弥富ならではの風景を詠んだ句です。

誓子はたびたび弥富を訪れて金魚の句を数多く残し、俳句の世界に金魚を広めた功績でも知られています。

【参考】 弥富文学研究会編
『弥富文学散歩』

◆弥富市歴史民俗資料館
056716514355

令和7年度(下期)文化協会行事予定

(一) 愛知県民茶会

とき 10月19日(日)

ところ 愛三文化会館(天門市)

(二) 第37回市民文化展

とき 11月14日(金)

ところ 16日(日)

ところ 社教センター

第一多目的室ほか

(三) 秋の特別企画講習会

とき 11月上旬〜12月上旬

ところ 社教センターほか

(四) 第18回市民俳句大会表彰式

とき 11月15日(土)

ところ 社教センター

第二会議室

(五) 文化協会研修旅行

とき 11月26日(水)

ところ 奥の細道むすびの地
記念館

(六) 県文連西尾張部芸能大会

とき 12月21日(日)

ところ 大口町民会館

出演団体 フラ・マヒナ

(七) 第50回愛知県文連美術展(公募)

とき 令和8年1月20日(火)

ところ 25日(日)

ところ 愛知県美術館

(八) 「やとみ文協」第38号

とき 令和8年3月発行

(九) 文芸関係部門別事業

とき 年間通して

ところ 社教センターロビー

ほか

文化協会
研修旅行

秋の研修旅行を下記のとおり実施いたします。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

記

●とき／11月26日(水)

●研修先／奥の細道むすびの地記念館
胡麻の郷
黒壁スクエア

(昼食) 長浜市にて

●参加費／未定



奥の細道むすびの地記念館



胡麻の郷